

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070201916		
法人名	医療法人社団醫光会		
事業所名	グループホーム のぞみ		
所在地	群馬県高崎市下佐野町 752-1		
自己評価作成日	平成25年11月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成25年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日明るく楽しく暮らせるように、笑顔と笑い声が弾むホームを心がけています。毎日の日課としてラジオ体操を行い習慣としています。また散歩コースにも恵まれており、天気の良い日はなるべく外気にふれています。「美味しいものが食べたいな～」と言う利用者様の声に応え、かなりの頻度で手作りおやつを作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議の開催については、家族の参加しやすい状況を考慮するなかで、土曜日または日曜日を設定して開催し、常時6名程の参加を頂いている。また、家族会を設け、年に2回行事と組合わせ集う機会を設けたり、季節毎の衣類の交換時期には家族に連絡し協力を頂いたりなど、家族と共に入居者を支える支援を行っている。日々の支援においては、入居者と一緒につくりのおやつ作りを生活に採り入れたり、入居者のレベルの変化を勘案するなかで、身近な所で楽しめる屋外でのバーベキューを企画したりするなど、創意工夫しながら食事を楽しむ支援をしている。終末期については、利用契約書に看取りの指針を明記し、事業所の方針を当初から家族に伝え、その時々家族の意向を確認し、意向に沿えるよう関係者と協議しながら支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に作成した事業所理念をもとに、管理者と職員がその理念を共有して、地域社会の一員として実践に繋げている	「家庭的な生活、地域社会の一員としての生活が送れるよう支援する」ことを、開設当初からの事業所の独自の理念として掲げ、実践に取り組んでいる。会議で時折理念について触れることはあるが、職員が理念を振り返り、共有する機会は少ない。	実践のなかで、理念を振り返り、理念と実践との関わりや理念の持つ意味を職員同士で話し合い、共有しながら理念を目指すことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の傾聴ボランティアの方々との交流や運営推進会議開催により、区長や民生委員を通して地域の方々との交流を図っている	散歩の際には、近所の方や幼稚園児と声をかけあっている。地域の傾聴・三味線などのボランティア訪問、高校生の体験学習、近所の幼稚園との事業所での交流など、事業所での交流が主体となっている。立地条件や入居者の状態を勘案しながら、外での交流も模索している。	
3		○事業所の方を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議により区長、民生委員、傾聴ボランティアの方々を通して地域の方々との交流が出来るようになっており、秋祭りへの参加も呼びかけ交流を図っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催しており、家族にも出席していただき、利用者の状況報告や意見交換を行うと共に、交流会として話し合いを行っている	運営推進会議には、区長や民生委員などの地域の代表のほか、家族の参加しやすい土・日曜日に開催しており、常時6名程の家族の参加がある。行事・入居者の状況・事故報告など、運営全般の報告を行い、意見交換や交流会を行っている。	運営推進会議を活かした取組みの見地から、事業所の課題等を議題として掲げ、意見等を反映させ、サービス向上に活かせる取組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、地域の口調や民生委員、傾聴ボランティア、長寿社会課の担当の方も交え、意見交換を実施している	運営推進会議には、市の担当者の参加を頂き、情報交換を行うと共に、意見・助言等をいただいている。そのほか、電話で報告や相談などを行い、市と連携を図りながらサービス向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、拘束研修に参加し、身体だけでなく言葉の拘束をしない様取り組み、玄関においても施錠は行わず、誰でも出入り出来るようになっている	身体拘束について法人内の研修に参加し、事例研究を通じ、共通の理解を深めている。また、日頃のケアのなかで職員間で相談し、工夫や見守りの連携を図り、身体拘束をしないケアを実践している。家族には、入居時事業所の方針を説明し、理解を頂いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会において、高齢者虐待防止関連法について学び、事業所内での虐待防止に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連の研修が開催される際には参加し、学ぶ機会を持つよう努力している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の改定等の際は、家族の不安や疑問点がないか確認し、十分な説明を行って、理解、納得いただけるよう取り組んでいる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家人来訪時には、利用者も含め話し易い雰囲気作り努め、また玄関には苦情受付箱を設け、電話やFAXでも受けられるよう、玄関と西側ドアの壁にも案内を掲示している。また年2回、家族会も実施している	家族の面会時、入居者の様子などを伝え、意見や要望を聞くようにしている。家族会を設け、年2回クリスマスなどの行事に合わせ開催し、情報共有と意見交換の場としている。また、法人でアンケートを実施し、運営に関する意見の表出の機会をつくり、家族と共に入居者を支える運営に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催している。職員会議において意見交換や提案を話し合い、日常の申し送り時にも話し合いをし、情報を共有して実践に勤めている	毎月の職員会議は、協議内容が事前に示され行われている。法人施設のホーム長会議では、事業所からの意見も協議され、全体的な意思統一に向けた取組みがされている。また、職員は、毎年度年間目標を提出し、3ヶ月毎の管理者の面談による評価等、人事考課制度を機能させた職員の意識高揚とサービス向上が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に管理者や職員に対し気を配り、勤務し易い環境作り努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の定期的に行われている研修や法人外での研修の参加内容について報告書を提出し、職員会議で意見する機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会に加入し、体験発表をもとに資料を作成し、グループホーム大会に参加している。その際、同業者との交流が図れ、サービスの質の向上に反映する取り組みが行える		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者との会話を通して困っている事や不安に感じている事、要望、不満等、傾聴し改善している。信頼関係を築けるよう努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	運営推進会議、年2回の家族会を開催し、意見交換をしたり、家族が来苑した際、希望や不安、要望などないか積極的に声掛けをし、信頼関係を築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の訴えをよく傾聴し、まず1番に必要なとしている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は同じ家族の一員との考えで共に過ごし学び支え合う関係を大切にしている。人生の先輩であることを尊重し、互いに支え合える関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態をこまめに報告したり、相談するとともに、家族が来苑時は本人と家族の潤滑油になるよう心掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	玄関には鍵をかけずオープンにしている。気軽に来所して頂けるようにと玄関先などに季節の花や飾り付けをして明るい雰囲気作りを心がけている	日頃、孫を含めての家族の面会、近所の友人の来訪、家族の協力による馴染みの美容院利用、外出の際の自宅近くへの立ち寄り、市内名所の訪問など、入居者の馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族の協力を得ながら、機会を捉えて支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール内で利用者同士が関わりが持てるようにテーブルの配置を考え時々席替えをしたりして新たな関わりが持てるように支援している。利用者同士の関わりの橋渡しができるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた方などに対し、家族から様子を聞いたり、相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話のなかで、本人の希望を聞いたり、行動や言動の中から本人の思いや意向を察し把握することに努めている	入居者の生活歴を参考に、日常の生活のなかで常に声かけをして本人の希望を聞き、言動や表情・しぐさから思いや意向を汲みとり、把握するようにしている。生活習慣から夜遅くまでテレビを見ていた方には、就寝時間の枠にこだわらず希望に沿えるようにするなど、それらに沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から要望や意見を聞き、これまでの暮らし、生活環境の把握に努め、職員が寄り添い馴染めるように支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士の情報の共有を密にし、利用者一人一人の現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した個別介護計画を作り状態の変化に応じて本人、家族の意向等を確認しながら現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで話し合い、家族の要望を反映した介護プランを作成している。プランに沿ったケアをするなかで、ケア記録や申し送りノートへの気づきの反映、毎月のモニタリング、担当職員からの課題・問題点の反映により、3ヶ月毎及び緊急のプランの見直しを行い、変更内容がすぐ分かるよう線を引き、職員間共有のものとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づき等個別記録に記入し、毎月のカンファレンス以外でも変化が生じた際にはその都度話し合い見直ししている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じ、通院介助、買い物支援等、必要に応じて柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の隣に幼稚園があるので、定期的に来苑していただいたり、散歩時に見かけた際には一緒に散歩する等し、ふれあいを大切にしている。また、傾聴ボランティアとの密な関係により暮らしを楽しめるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意見を尊重し適切な医療が受けられるよう支援している。かかりつけ医の定期的な廻診も実施している	本人・家族の希望するかかりつけ医とし、協力医をかかりつけ医とする方は、週1回往診があり受診している。それ以外の方は、家族が通院介助し、家族の都合がつかないときは、職員が介助している。家族とは連絡を密にし、情報共有しながら、適切に医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	それぞれの職員が得た情報や気付きは看護師に伝え相談し、家人に報告し適切な受診等が受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケースワーカーや相談員と連絡をとり情報交換や相談をおこない良い関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホーム内で看取りを希望されるか事前に確認をし、重度化してしまった際でのホーム内での対応の仕方を相互理解する様にしている	利用契約書に看取りの指針を明記し、事業所の方針を当初から家族に伝えている。状態変化等、その時々家族の意向を確認し、意向に沿えるよう関係者と協議しながら支援している。これまでに、看取りの経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生のリスクや対応策を研修や会議を通して学び直し、各々の利用者のリスクや対応策を一覧にして日々見直す様にし、未然に事故を防ぐようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルが作成され法人として、年2回消防署と立ち合いと自主訓練を昼夜想定して避難訓練を行っている。運営推進委員会会議を通して近隣の方々に協力を依頼している	マニュアルに沿って、法人の系列の近隣施設と合同の訓練及び事業所独自の訓練をそれぞれ2回づつ実施している。消防署立会のもと、夜間想定も取り入れている。近隣の方にも参加協力をお願いしているが、参加には至っていない。備蓄については、飲料水、非常食を備蓄している。	地域の方の役割等を踏まえた地域の協力体制の構築に向けた取組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人の誇りやプライバシーを損ねない様個人の気持ちを大切に声掛けや対応に注意を払っている。記録の書き方や個人情報取り扱いについても慎重に対応している	敬語を基本としながら、生活歴や本人の性格を把握するなかで、一人ひとりに合わせた話し方をしていく。また、入居者に関する職員間の会話は聞こえないように注意を払い、居室への出入りの際の声かけ、入浴やトイレ誘導の際の羞恥心への配慮などに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話や表情、行動表現からのサインを読み取り、本人の意志や希望が気兼ねなく言える雰囲気を作り自己決定ができるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせて本人の意見、希望を尊重し希望に添えるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみはできるだけ個人が選んでその人なりのお洒落ができるよう支援している。また、レクなどで着物をきていただいたり普段とは違ったお洒落も楽しめるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りおやつなどを通して利用者と一緒に作り、作る工程から楽しんで頂いている。食器拭きやお盆拭き等も利用者の日課として毎日手伝って頂いている	系列業者の献立・食材提供のもとに職員が交代で調理し、職員も一緒に同じ物を食べている。検食簿に記入し、好みや状況を給食会議を行い、反映させている。また、入居者と一緒につくりのおやつ作りを生活に採り入れ、入居者のレベル低下を勘案するなかで、屋外でのバーベキューをするなど、食事を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月1回体重測定をし、栄養士の作成したバランスのとれた食事を提供している。食事や水分の摂取量は記録に残し、一人一人に応じた健康管理を支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の口腔状態に応じた口腔ケアを行っている。毎晩義歯の除菌洗浄も行っている。自力で行えない人には一部介助で支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄習慣やパターンを理解・把握し、プライバシーを尊重した上で、個々に添った支援を行っている。	トイレに行くこと・トイレでの排泄を生活の基本と考え、排泄と水分量摂取の状況を1表に表し、個別の排泄パターンや関連性を把握し、時間を見計らったトイレ誘導や水分補給を行っている。また、トイレで立位が保てるよう日頃から歩くことやレクリエーションでの筋力トレーニングを図るなど、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士による献立によってバランスのよい食事を摂っている。水分量を把握し、調整も行っている。また、主治医との連携により便秘にならないよう支援している		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合によって曜日等制限せず個々の希望に添って入浴して頂いている。また、入浴剤や季節湯等施行し香りや雰囲気等も楽しんで頂けるよう工夫している	基本週2回、曜日を決めているが、毎日入浴したい方には、できるようにしている。職員と話をしたり、歌を歌ったり、また、しょうぶ湯やゆず湯・季節の花・入浴剤を用い、入浴を楽しむことができる支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の今までの生活習慣からそれぞれが異なっている事を十分に理解し、状況に応じて利用者のペースを考慮しながら、安眠や休息ができるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や用法、用量、副作用を理解し正しく服用できているか確認し支援している。また症状の変化にも職員間で把握し情報の共有を実施している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を理解し、毎日変化があっても楽しめる様に支援している。四季に合わせて花を飾ったり、散歩や外出をしたりして毎日変化が伝わるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の会話の中から個々の希望や要望を聴き、体調や安全を考慮した上で、外出や散歩、買い物、外食を楽しんでもらえる様、計画、実施できるよう努力している	散歩では、近所に幼稚園があるため、園児と声かけあっている。外出行事は予め企画しているが、その日の状況に合わせて臨機応変にちょっとした外出ができるようにしている。レベル低下に伴い、敷地内の屋外で楽しめるパーベキューを行っている。理念に掲げる家庭的な生活の観点から、お金を使う行為を伴う買い物も検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	時々、利用者、職員で外出することによって買い物や外食を通して一人一人が希望に応じて楽しく過ごせるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人への電話や手紙を希望する時は、いつでもやり取りができる様支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホール各所に季節の草花や利用者の作品、写真を飾って、利用者が居心地良く過ごせる様に配慮したりお香をたいたりしている。家族の方が面会に来られた際に安心されるように工夫している	ホール・廊下は、広いスペースとなっている。天井は吹き抜けで明るく、居室脇の壁には、掘り込みの棚があり、入居者の手づくりの粘土人形と花が飾られている。コーナーには、テレビを囲みソファが配置されている。また、クリスマス飾りなど入居者との協働の壁絵が季節に応じ飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにて気の合った利用者同士、職員と談話したり、ソファに座ってテレビやビデオを観られるように配慮している。好きな時に自室で休めるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた馴染みのタンス、鏡台、家族の写真や利用者の作品、絵画、人形、時計等を好きな様に置いてあり、居心地良く過ごせ、個性のある居室作りを工夫している	居室内には、馴染みのタンスや衣装箱・鏡台などの家具、家族の写真、入居者の作品、人形などが飾られ、個性のある居室となっており、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部(廊下、食堂、浴室、トイレ等)で安全にそして自立した生活が送れる様に、問題があれば職員同士で話し合い、改善し工夫している		